

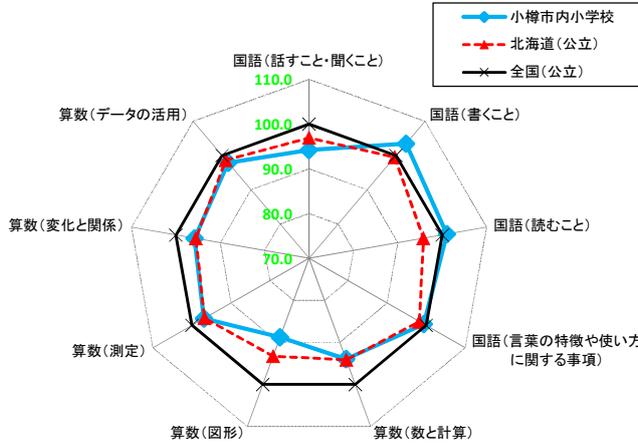
■小樽市内の状況及び学力向上策（小学校数：17校、児童数：635人）（中学校数：12校、生徒数：673人）

【教科全体の状況】

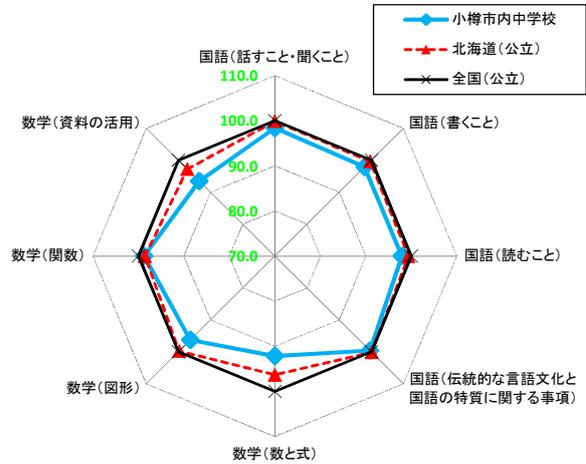
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	64
算数・数学	67	54

小学校

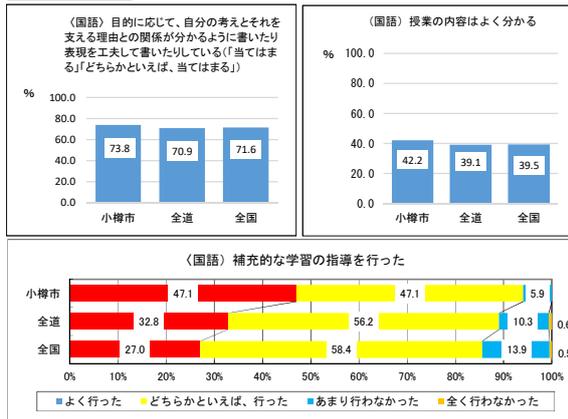


中学校

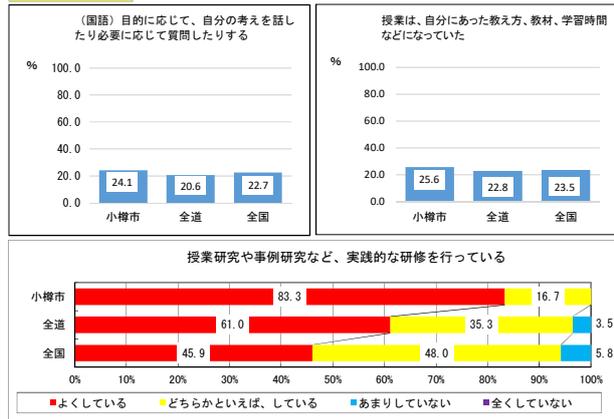


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**  
 国語の指導において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、書くことの領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。  
 国語の指導において、補充的な指導を行ったことにより、授業の内容がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**  
 国語の指導において、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の話すこと・聞くことの領域において全国に近づいたと考えられる。  
 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていることにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【小樽市の学力向上策】

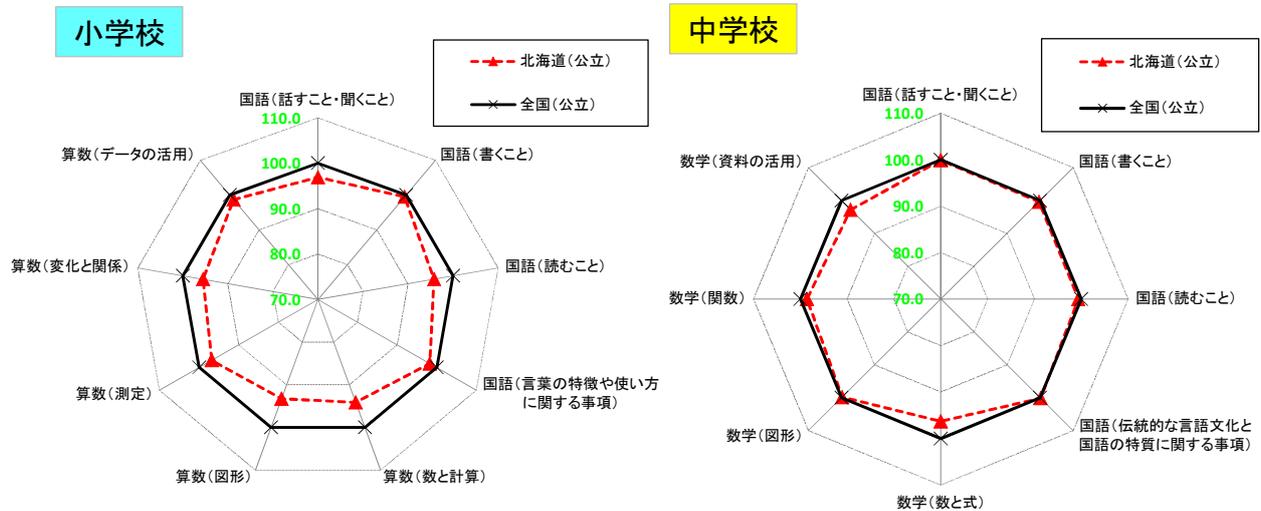
- ◎ 「小樽授業づくりの5つのSTEP！！」に基づく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ◎ 市内全小学校第3・5学年、中学校第2学年を対象とした標準学力調査の実施と、その結果を活用した授業改善
- ◎ 「小樽市小中一貫教育基本方針」に基づく、義務教育9年間を見通した教育課程の編成や乗り入れ授業等の実施
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用を目指したGIGAスクールサポーター及びICT支援員の支援訪問の実施
- ◎ 「ICT活用研修講座」の開催等を通じた教員の指導力向上

## ■島牧村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:3人）（中学校数:1校、生徒数:5人）

※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、島牧村の教科及び児童生徒質問紙のデータは掲載していない。

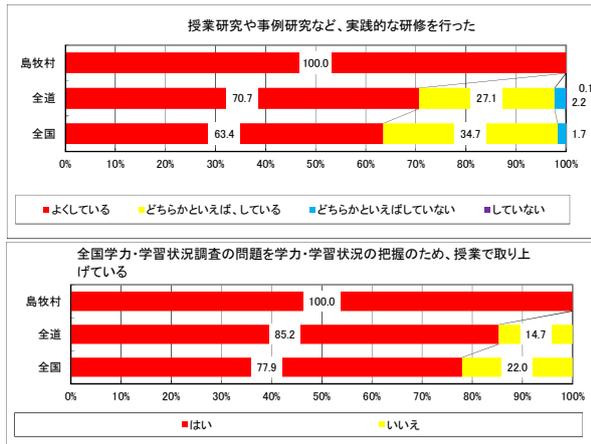
### 【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

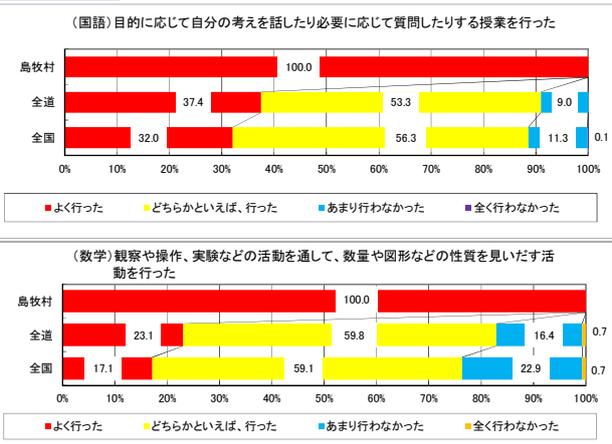


### 【質問紙の状況】

#### 小学校



#### 中学校



### 【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業研究や事例研究など、実践的な研修を行ったことにより、国語や算数における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。
全国学力・学習状況調査の問題を学力・学習状況の把握のため、授業で取り上げたことにより、国語や算数における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

中学校
国語の指導において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。
数学の指導において、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を授業で行ったことにより、数学における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。

### 【島牧村の学力向上策】

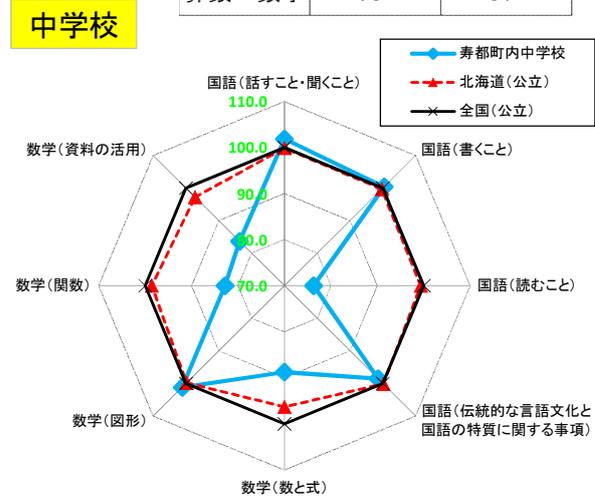
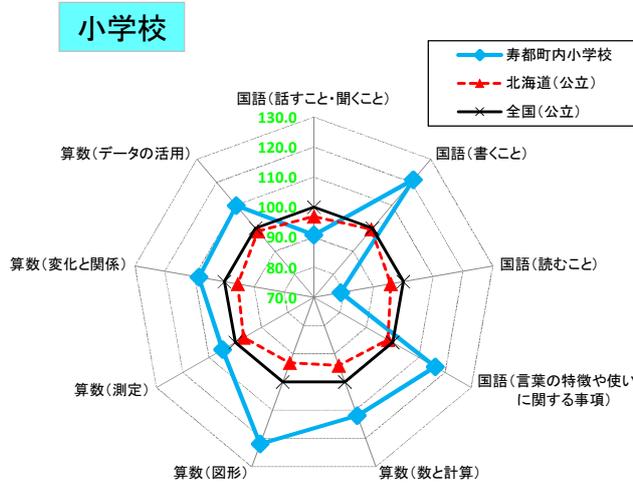
- ◎ 個に応じた指導の充実を図るとともに、小学校における朝・放課後学習、夏季・冬季休業期間の学習サポート、中学校における放課後サポート、夏季・冬季休業期間の講習会などの実施
- ◎ 村独自の教員の配置による基礎・基本の定着を図るための授業を行う環境づくりの充実
- ◎ 小・中学校が連携し、算数・数学や外国語の学力向上に向けた乗り入れ授業、オンライン授業などの推進

■ 寿都町内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:17人) (中学校数:1校、生徒数:25人)

【教科全体の状況】

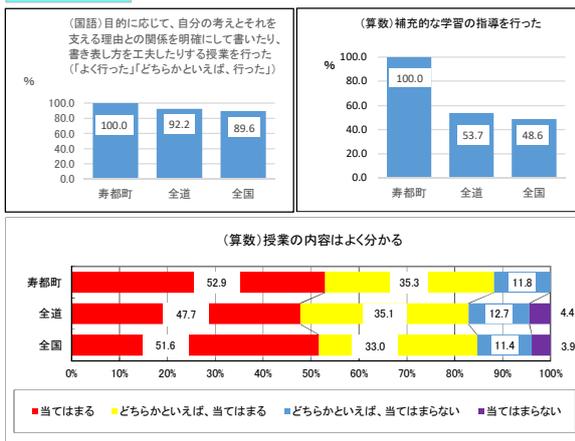
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	61
算数・数学	78	51

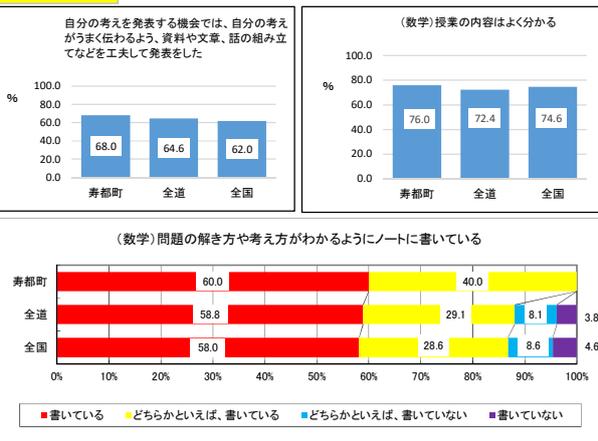


【質問紙の状況】

**小学校**



**中学校**



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

国語の指導において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の書くことの領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の指導において、補充的な指導を行ったとともに、分かる授業づくりを実践したことにより、算数の全領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

考えを発表する機会に、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表するように指導したことにより、国語の話すこと・聞くことの領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の指導において、問題の解き方や考え方が分かるようなノート指導を行ったことにより、授業の内容はよく分かると回答した生徒が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【寿都町の学力向上策】

- ◎ 学習支援員の配置による習熟度別少人数指導等の指導の推進
- ◎ 家庭学習の手引きや生活リズム調査による家庭学習習慣の定着を図る取組の推進
- ◎ CSによる地域人材を活用した学習や地域全体が一丸となって子どもたちの成長を支える取組の推進
- ◎ 小中高連携推進委員会が中心となった取組による乗り入れ授業を通じた授業の質の向上、小中高の授業状況の共有を通じたスムーズな校種間移行に向けた体制の整備
- ◎ 1人1台端末等、ICT機器による授業での効果的な活用や地域を題材にした体験的な学習での活用の促進

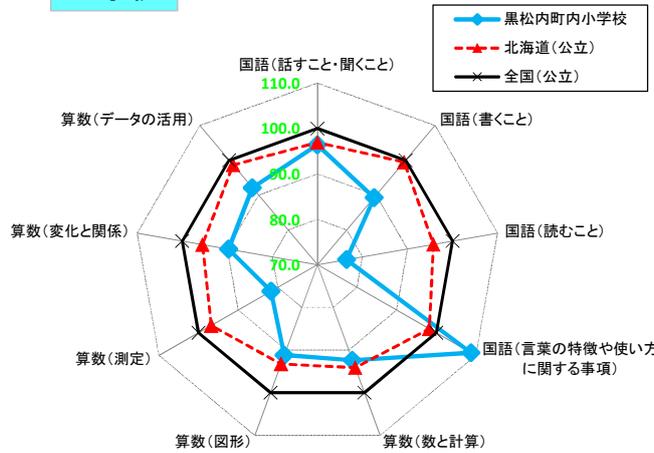
■黒松内町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:24人）（中学校数:2校、生徒数:15人）

【教科全体の状況】

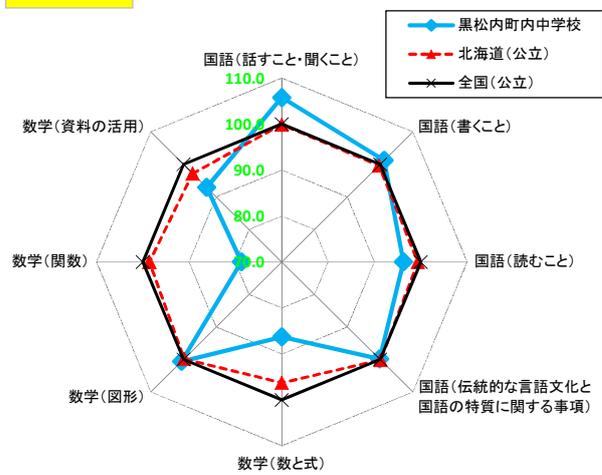
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	65
算数・数学	63	51

小学校

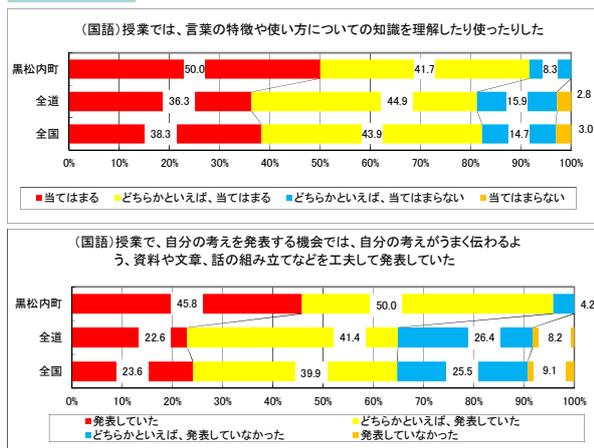


中学校

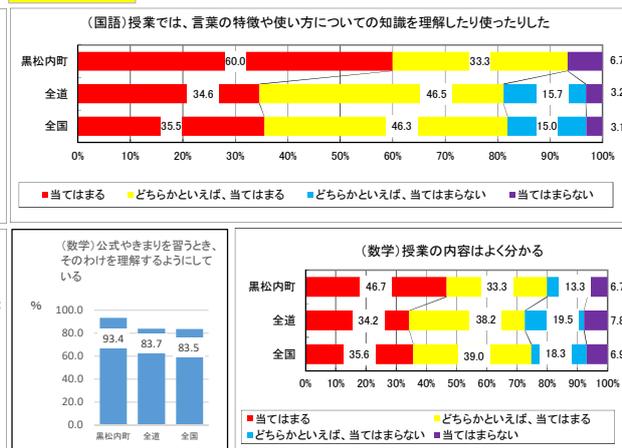


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりした授業を行ったことにより、言葉の特徴や使い方に関する事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。
国語の指導において、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表するような指導を行うことで、話すこと・聞くことの領域において全国及び全道に近付けることができたと考えられる。

中学校
国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりした授業を行ったことにより、国語の2領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の指導において、公式やきまりを教えるとき、そのわけを理解するように授業を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【黒松内町の学力向上策】

- ◎ 学力の定着と学習意欲の向上のための町営塾の運営
- ◎ 国際交流協力員等による外国語活動や英会話教室の実施
- ◎ 児童生徒の実態に応じたICTを活用した授業づくりの推進

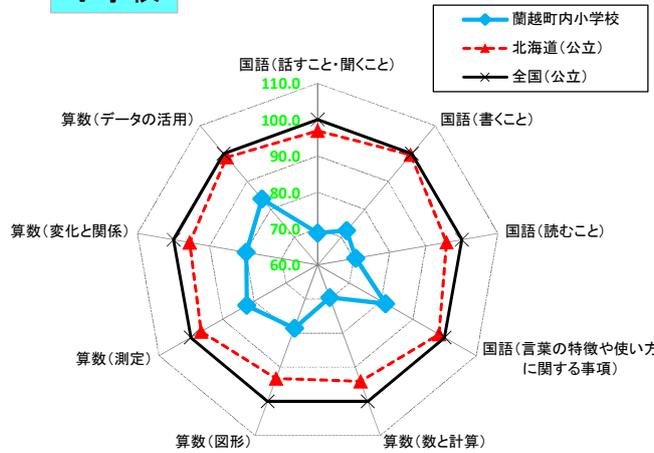
■ 蘭越町内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:33人) (中学校数:1校、生徒数:28人)

【教科全体の状況】

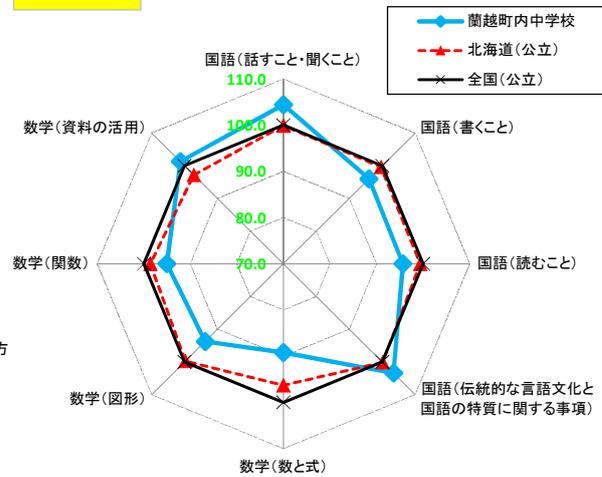
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	49	65
算数・数学	57	54

小学校

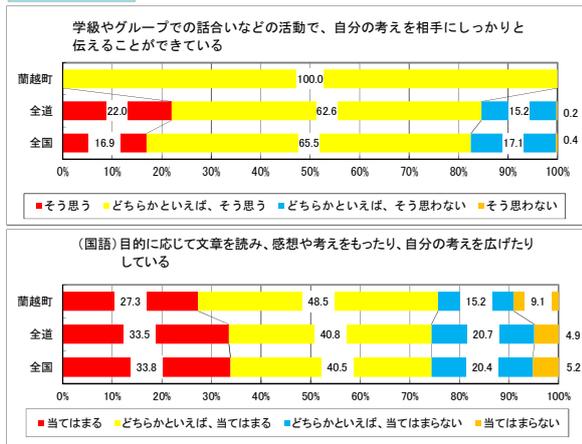


中学校

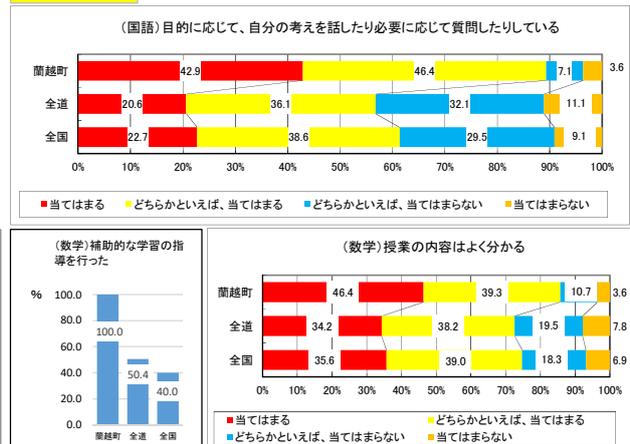


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学級やグループでの話し合いの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝える指導を行っていたことにより、国語において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりすると回答した児童が多かったと考えられる。

中学校

国語の指導において、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の1領域1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の指導において、補充的な指導を行ったことにより、授業の内容はよく分かると回答した生徒が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【蘭越町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、授業改善や児童生徒の学習への関心や意欲を高める取組の支援
- ◎ 生徒の習熟の程度に応じた指導の強化ときめ細かな学習指導の充実
- ◎ 校長、教員に助言を行う学校教育アドバイザーを配置し学校の教育活動を推進
- ◎ 小・中学校で学習規律を統一し中学校進学時においても学習に取り組みやすい環境を確保

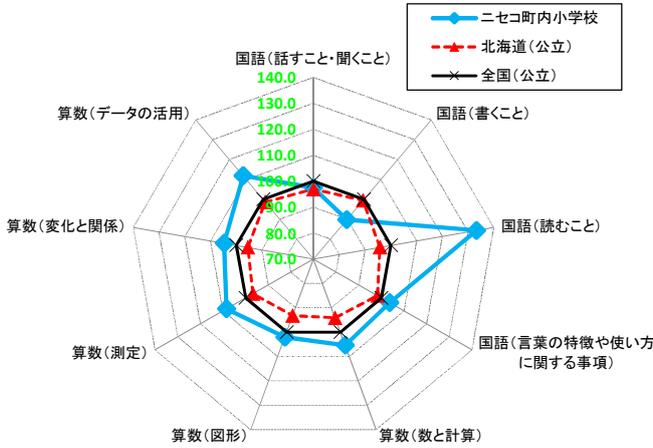
■ニセコ町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：44人）（中学校数：1校、生徒数：28人）

【教科全体の状況】

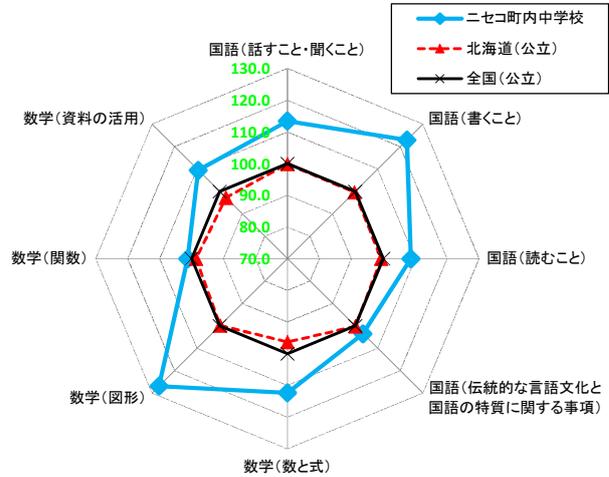
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	72
算数・数学	75	65

小学校

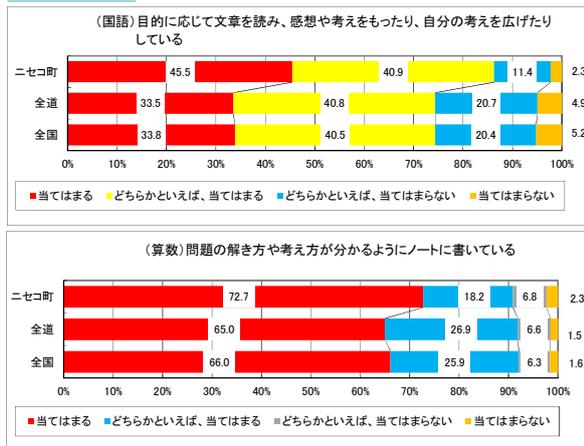


中学校

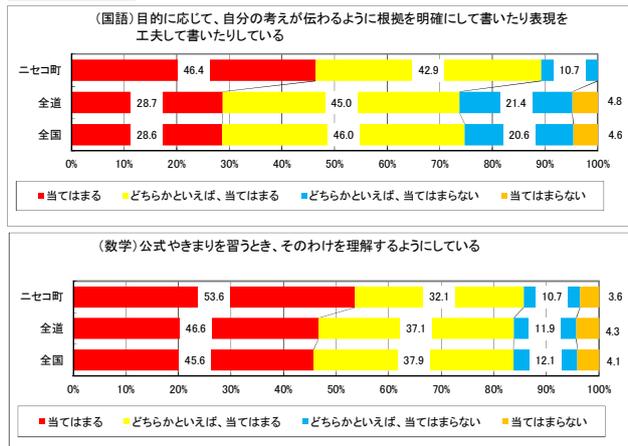


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の指導において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の1領域1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の指導において、問題の解き方や考え方が分かるようなノート指導を行ったことにより、算数の全領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の指導において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の全ての領域・事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の指導において、公式やきまりを教えるとき、そのわけを理解するように授業を行ったことにより、数学の全領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【ニセコ町の学力向上策】

- ◎ 一貫教育(幼・小・中・高)を推進し町として一体感のある教育活動の構築・展開によるニセコスタイルの教育の実感・定着
- ◎ 「ニセコスタンダード」の定着と一貫教育にふさわしい系統的な指導の推進
- ◎ 授業動画を活用した研修等、教職員の指導力向上による授業改善の促進

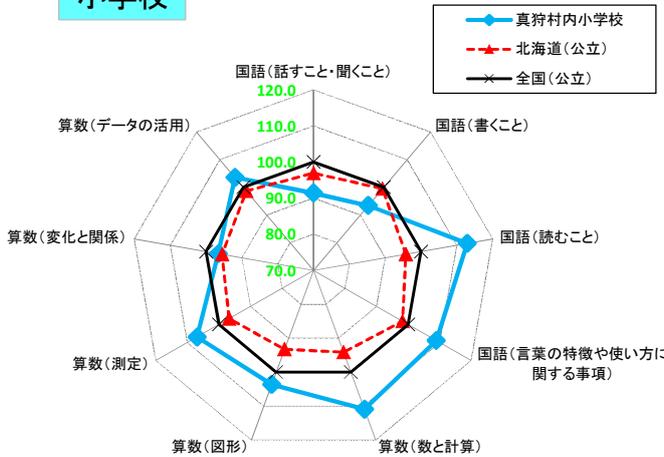
■真狩村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:11人）

【教科全体の状況】

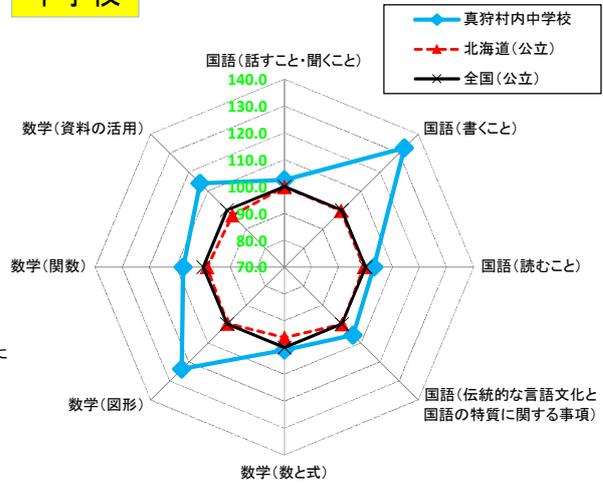
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	71
算数・数学	73	63

小学校

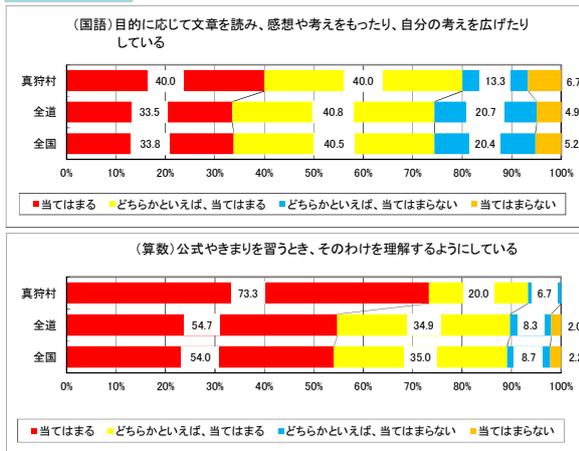


中学校

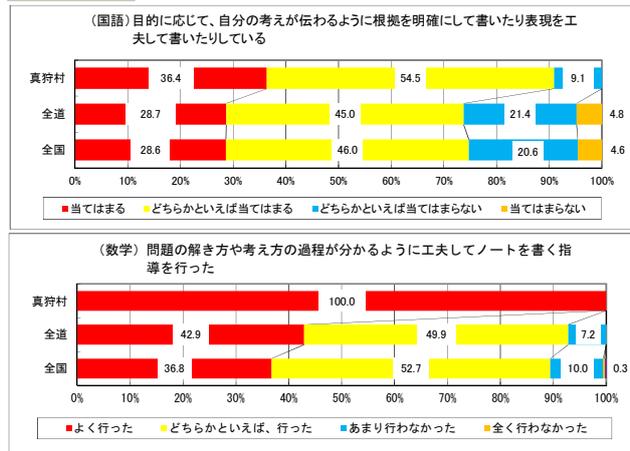


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
<p>国語の指導において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の1領域1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。</p> <p>算数の指導において、公式やきまりを教えるとき、そのわけを理解させるような授業を行ったことにより、算数の4領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。</p>

中学校
<p>国語の指導において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の全ての領域・事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。</p> <p>数学の指導において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、数学の全領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。</p>

【真狩村の学力向上策】

- ◎ ICTを活用した個々の児童生徒の理解度に合わせた指導や協働学習等におけるきめ細かな学びの推進
- ◎ 文字に親しむ環境をつくり、読解力を育む読書活動の推進
- ◎ 校内研修や教育研究会の充実、一人一人のキャリアに応じた研修会への参加など、自ら研鑽する体制の構築

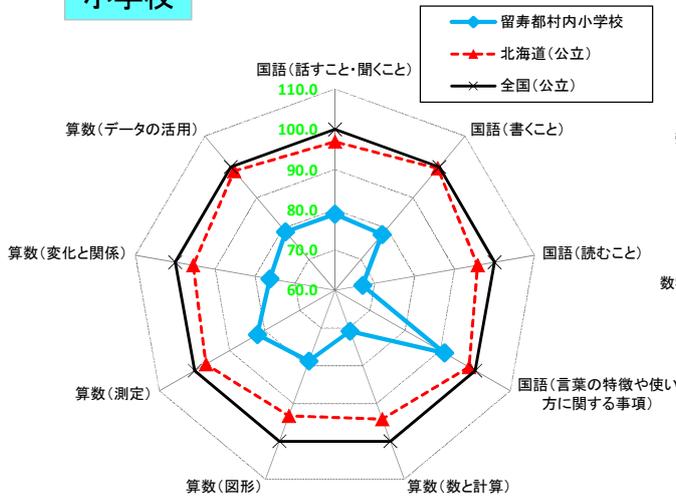
■留寿都村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:19人）（中学校数:1校、生徒数:17人）

【教科全体の状況】

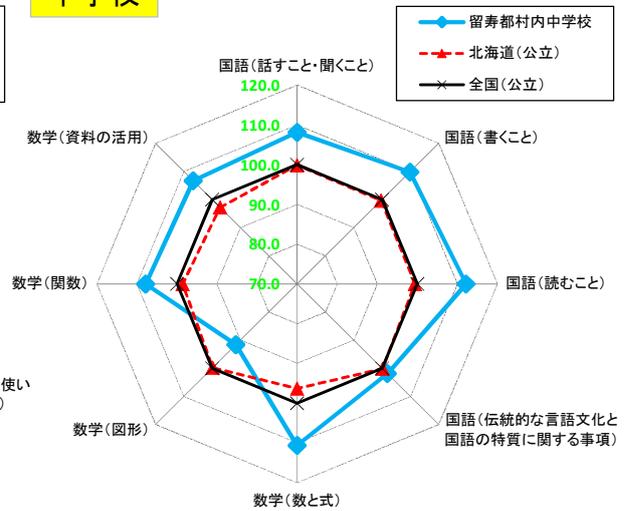
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	53	69
算数・数学	54	60

小学校

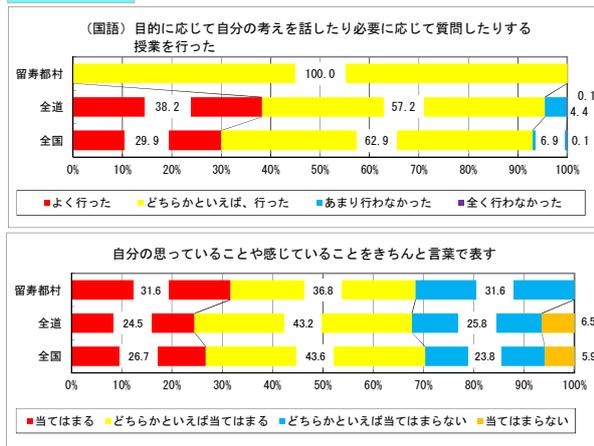


中学校

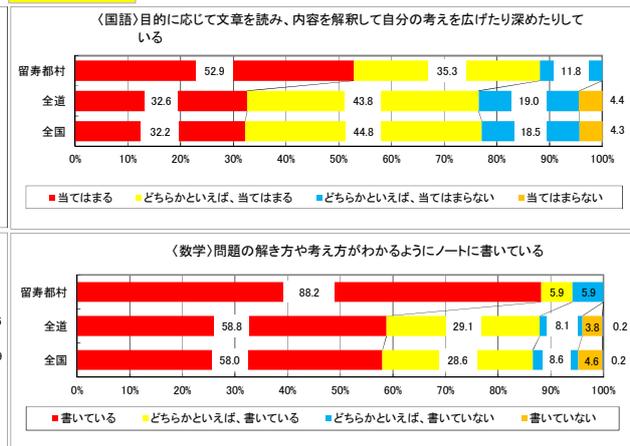


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で話す児童の割合が多くなったと考えられる。

中学校

国語の指導において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の全ての領域・事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の指導において、問題の解き方や考え方が分かるようなノート指導を行ったことにより、数学の3領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【留寿都村の学力向上策】

- ◎ 問題データベースタブレットドリルを導入し、学習用端末を持ち帰り、家庭学習での活用を推進
- ◎ 学習用端末を有効活用するため、公民館に学習室を設置して中学生を対象に「放課後等まなびサポート」の実施
- ◎ 教職員による自己評価や保護者、生徒アンケート等の学校関係者評価による教育活動全体の点検・見直し

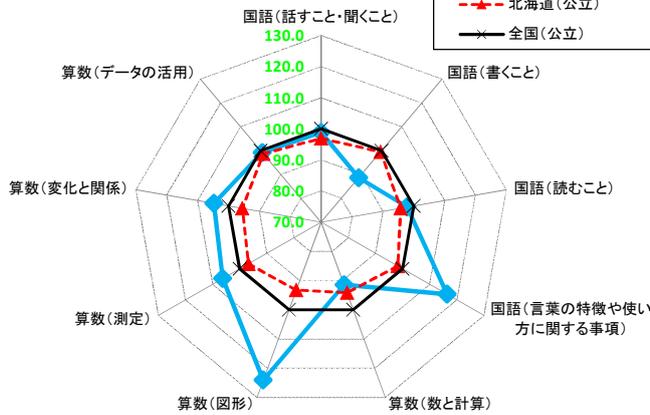
■喜茂別町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:13人）（中学校数:1校、生徒数:15人）

【教科全体の状況】

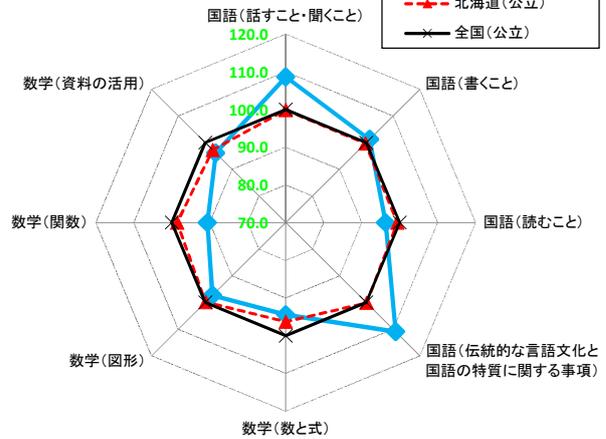
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	68
算数・数学	72	54

小学校

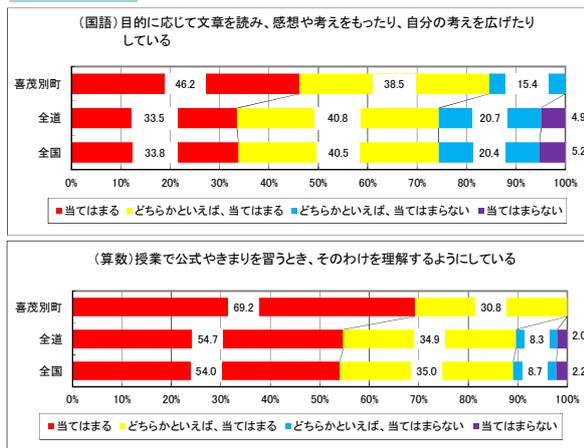


中学校

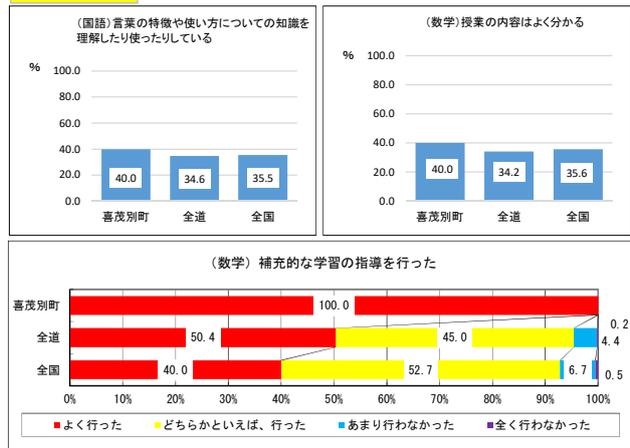


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

国語の指導において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の指導において、公式やきまりを教えるとき、そのわけを理解するよう授業を行ったことにより、算数の3領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の2領域1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の指導において、補充的な学習の指導を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【喜茂別町の学力向上策】

- ◎ 小中連携による、義務教育9年間を見通した一貫した指導の充実と実践
- ◎ ICTを活用した「分かる」喜びのある授業の確立
- ◎ 長期休業期間における補充学習の実施

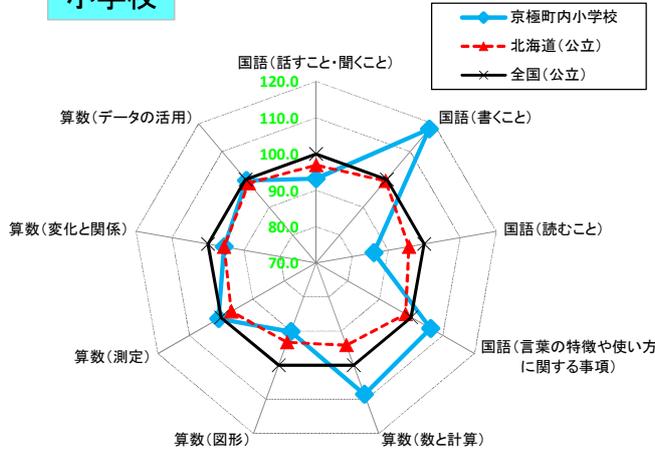
■京極町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:23人）（中学校数:1校、生徒数:29人）

【教科全体の状況】

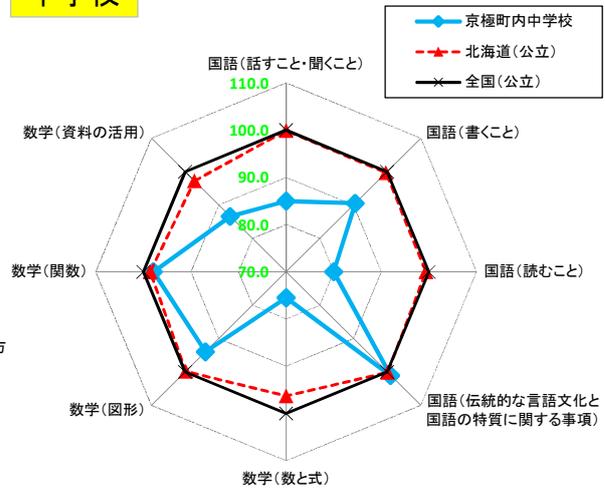
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	58
算数・数学	69	49

小学校

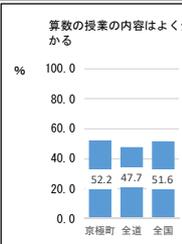
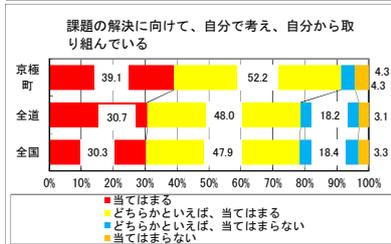
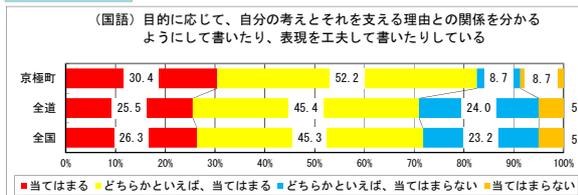


中学校

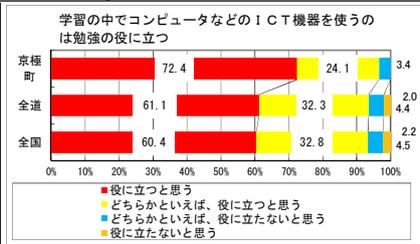
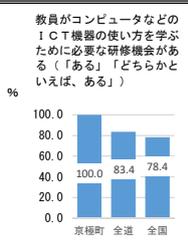
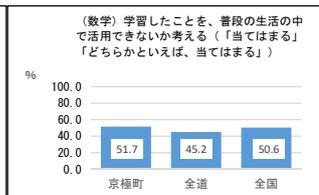
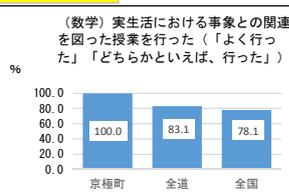


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

国語の指導において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の1領域1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。

課題解決型授業のスタイルを校内で統一し、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む授業を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

数学の指導において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を設けたことにより、授業で積極的に活用が図られ、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【京極町の学力向上策】

- ◎ 「京極STANDARD」に基づき小中連携して取り組む課題解決型授業の充実による義務教育9年間の学びの連続性確保
- ◎ 「家庭学習の手引」「京極版生活リズムチェックシート」等を活用した家庭学習習慣定着と生活習慣の改善
- ◎ 1人1台端末を活用した授業の活性化と深化、デジタル教材活用による基礎学力の確実な定着

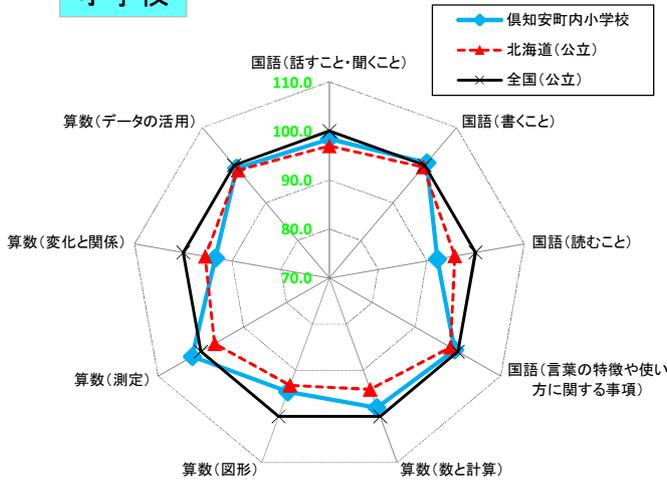
■ 倶知安町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:135人）（中学校数:1校、生徒数:115人）

【教科全体の状況】

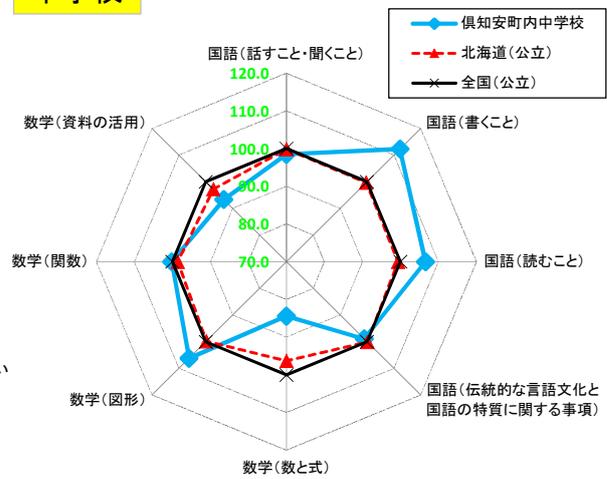
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	67
算数・数学	68	54

小学校

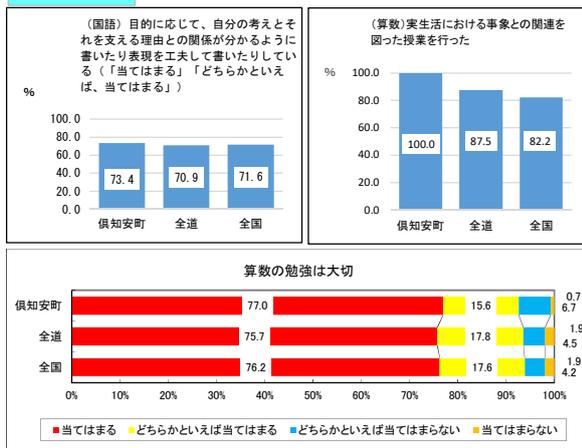


中学校

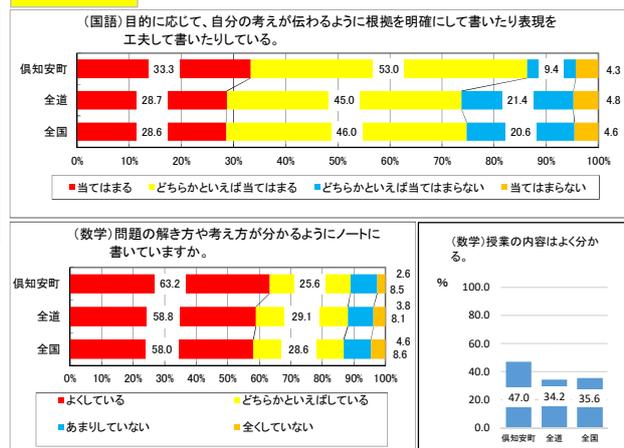


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の指導において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、書くことの領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の指導において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の勉強は大切と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の指導において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の2領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の指導において、問題の解き方や考え方が分かるようなノート指導を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【倶知安町の学力向上策】

- ◎ 学校と連携した「学校力向上に関する総合実践事業」の推進
- ◎ 「倶知安プラン」に基づいた学習規律・授業展開統一の推進
- ◎ 英語専科教員・理科専科教員による乗り入れ授業の実施

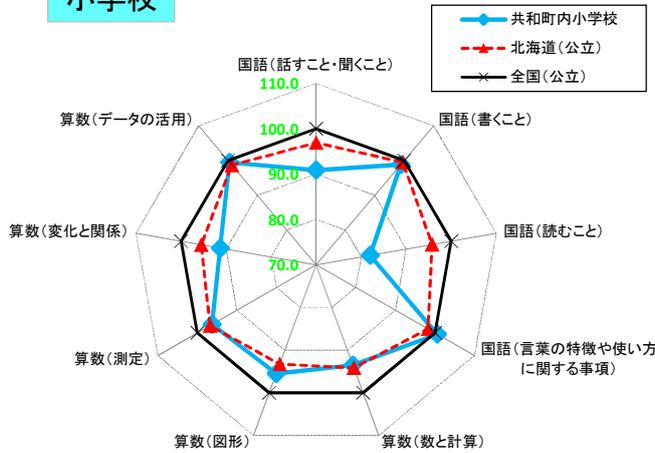
■共和町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:50人）（中学校数:1校、生徒数:41人）

【教科全体の状況】

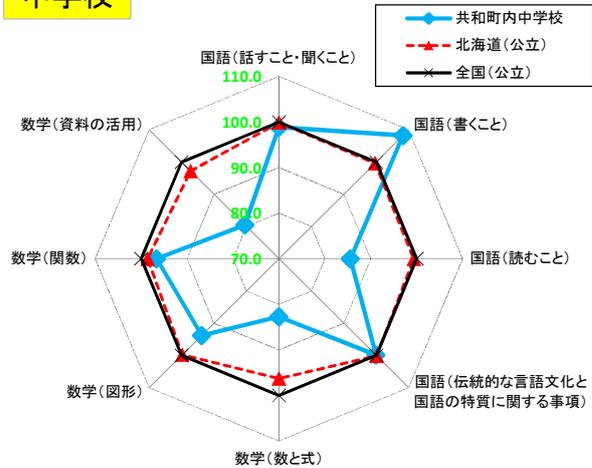
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	63
算数・数学	67	50

小学校

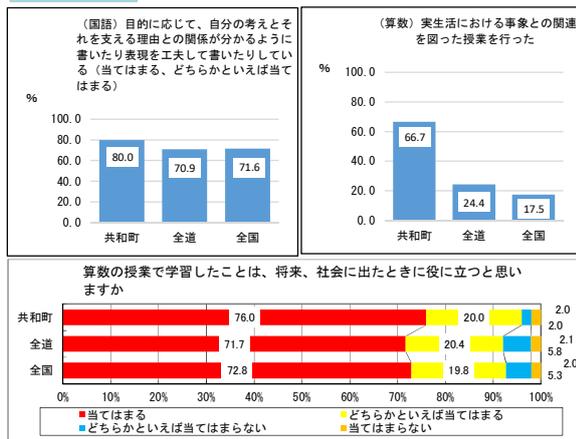


中学校

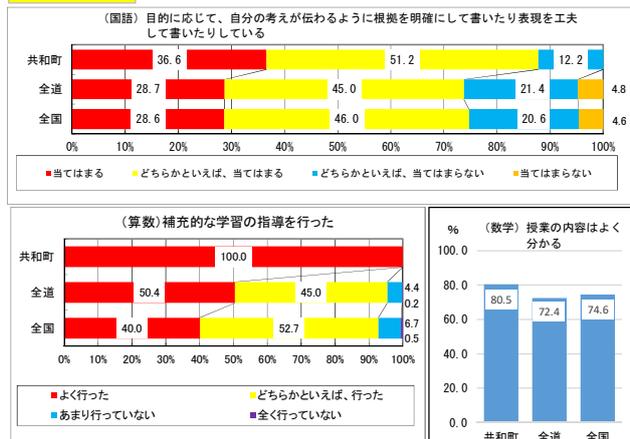


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

国語の指導において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、書くことの領域において全国に近付けることができたと考えられる。

算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

国語の指導において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、書くことの領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の指導において、補充的な指導を行ったことにより、授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【共和町の学力向上策】

- ◎ 特別支援教育支援員の配置及び放課後学習サポート等、特別な教育的支援を必要とする児童への支援の充実
- ◎ 外国語指導助手の専任配置による小学校における外国語教育の充実
- ◎ ICTを活用した基礎学力の定着・向上に向けた取組の推進

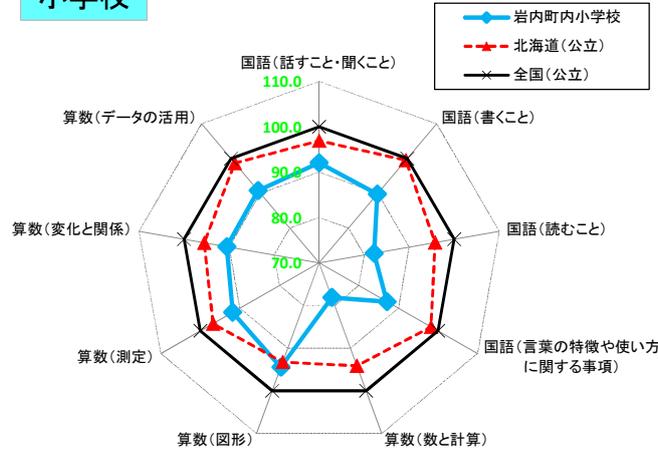
■岩内町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:67人）（中学校数:2校、生徒数:66人）

【教科全体の状況】

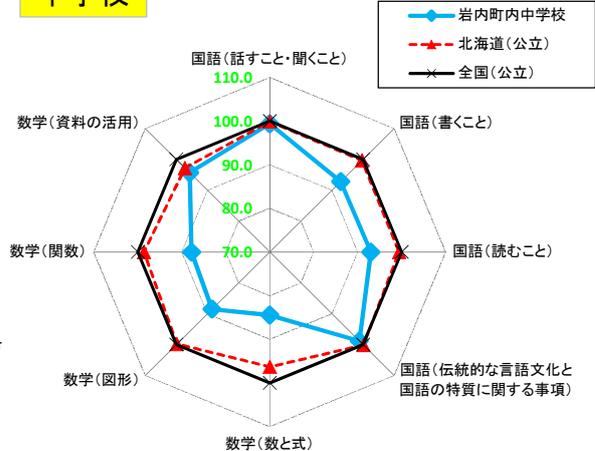
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	62
算数・数学	62	51

小学校

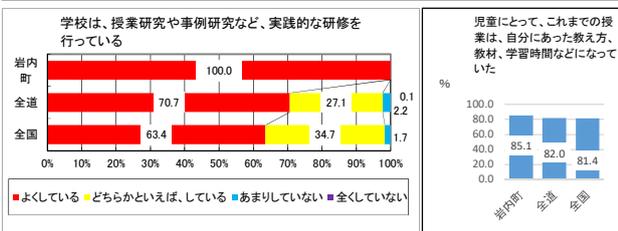
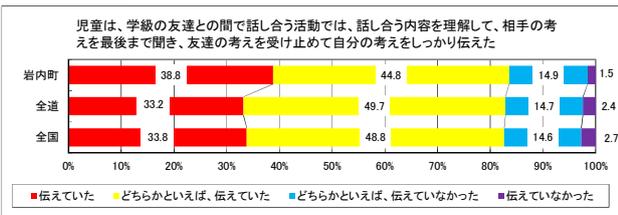


中学校

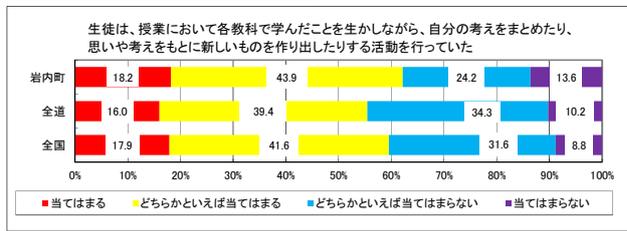
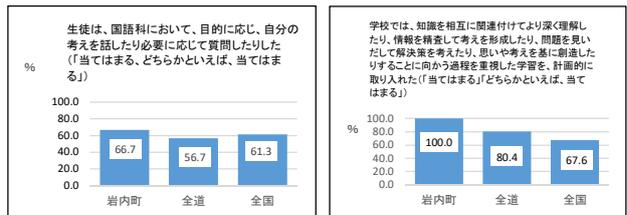


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学級の友達との間で話し合う活動において、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝える指導を行っていたことにより、国語の話すこと・聞くことの領域において全国に近付いたと考えられる。

授業研究や事例研究など、実践的な研修を行ったことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、話すこと・聞くことの領域において全国に近付いたと考えられる。

知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を計画的に取り入れたことにより、授業において各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【岩内町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育の推進
- ◎ 複数教員の配置による習熟度別少人数指導
- ◎ 基礎学力向上の定着を図るための学習指導員の配置
- ◎ ICTを効果的に活用した授業実践

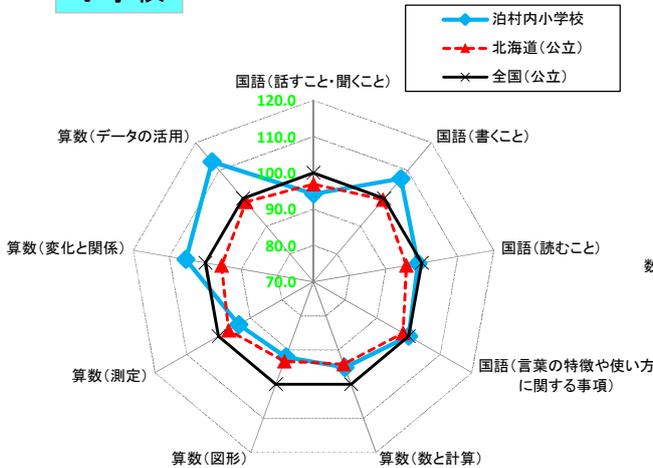
■泊村内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：10人）（中学校数：1校、生徒数：9人）

【教科全体の状況】

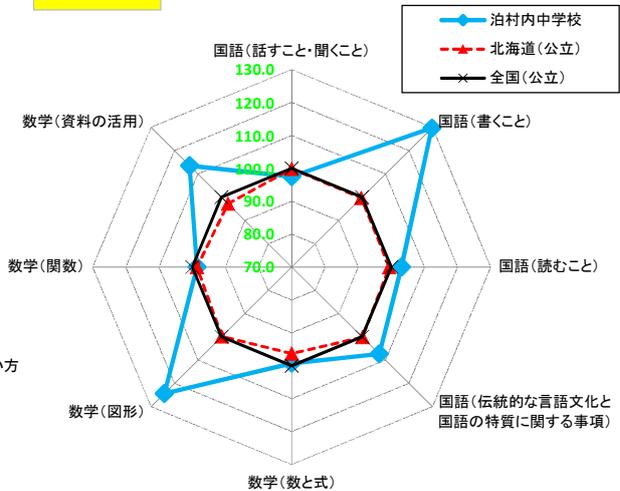
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	70
算数・数学	73	62

小学校

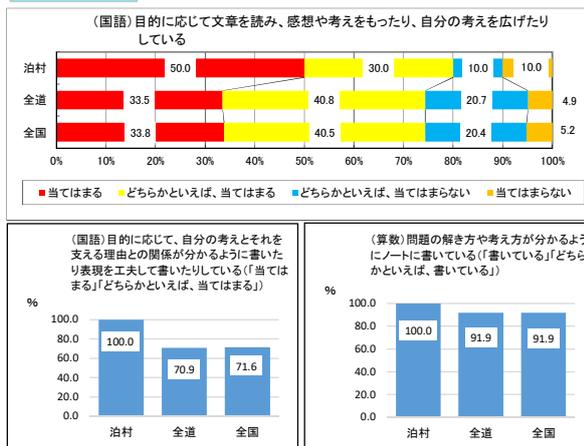


中学校

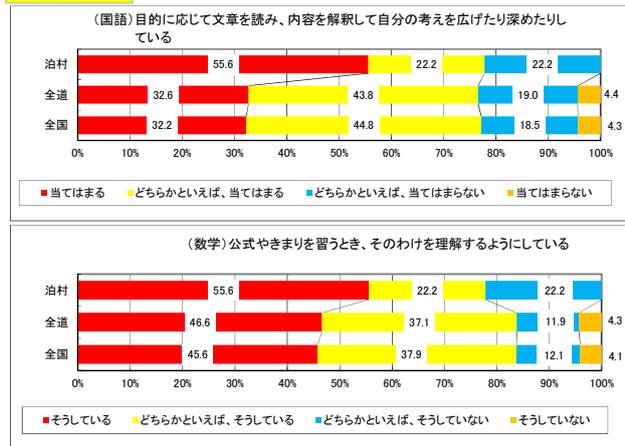


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、読むことの領域において全道を上回ったと考えられる。

国語の指導において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、書くことの領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の指導において、問題の解き方や考え方が分かるようなノート指導を行ったことにより、算数の2領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の2領域1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の指導において、公式やきまりを教えるとき、そのわけを理解するように授業を行ったことにより、数学の2領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【泊村の学力向上策】

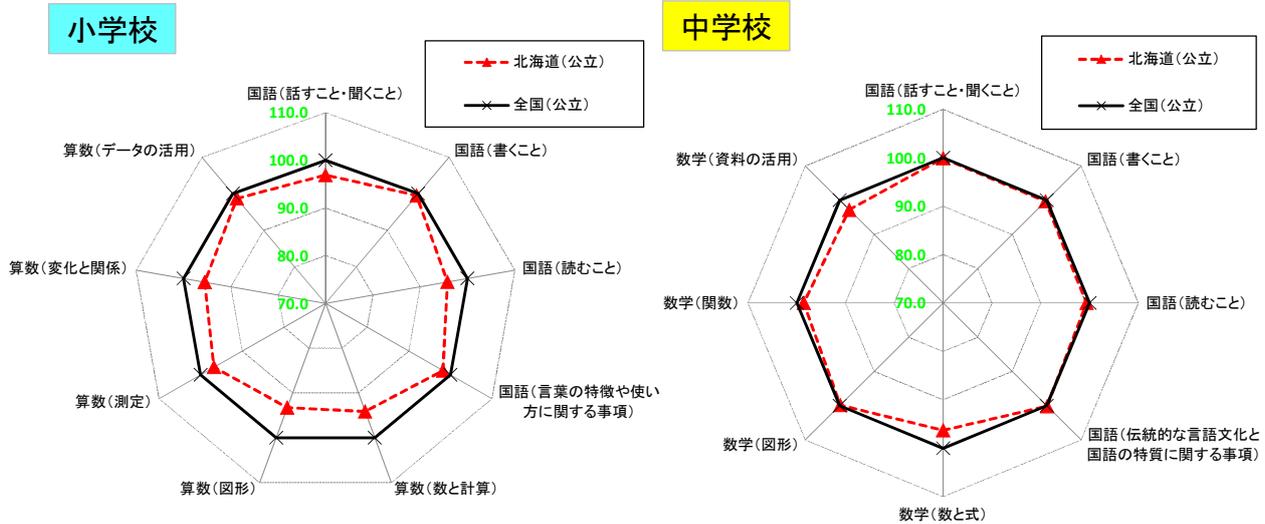
- ◎ 長期休業中の学習会を工夫し、継続して実施
- ◎ 個々の能力・適正に応じたきめ細かな指導と校内研修の充実
- ◎ CS・家庭と連携し、学習習慣と生活習慣の確立を推進
- ◎ 小学校への中学校教員の乗り入れ授業(国語・算数・数学)の実施や小中間の学習状況の実態把握と学習規律の統一
- ◎ 1人1台端末の全教科での効果的な活用とミニ研修による教職員研修の充実(中学校)

■神恵内村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:1人）（中学校数:1校、生徒数:4人）

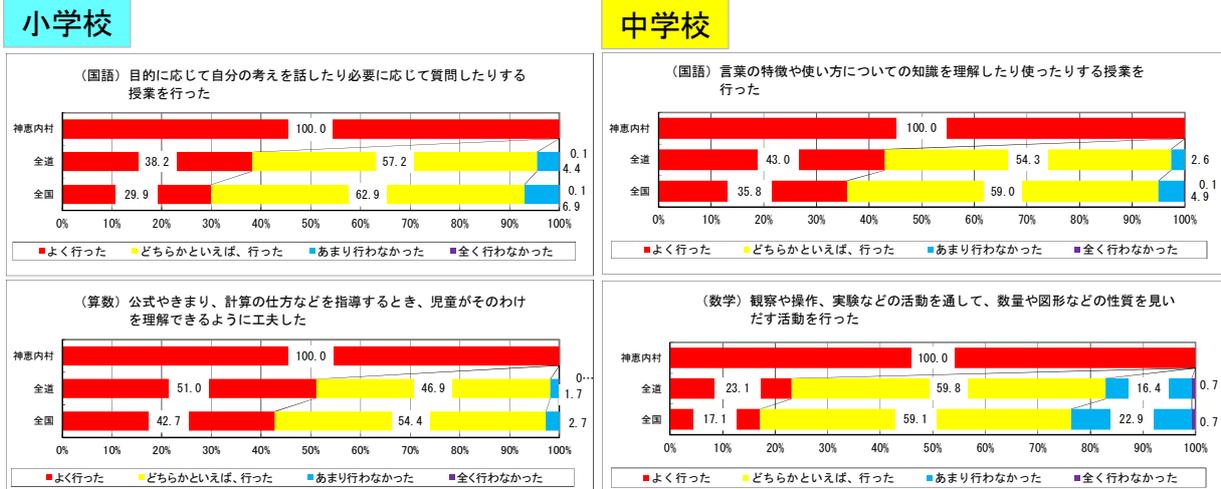
※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、神恵内村の教科及び児童生徒質問紙データは掲載していない。

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
<p>国語の指導において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。</p>	<p>国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。</p>
<p>算数の指導において、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫して授業を行ったことにより、算数における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。</p>	<p>数学の指導において、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす授業を行ったことにより、数学における基礎的・基本的な力が定着したと考えられる。</p>

【神恵内村の学力向上策】

- ◎ 小中連携により、義務教育9年間を見通した一貫教育の体制づくりの推進
- ◎ 教育の質の向上を実現するためのICT教育の充実及びタブレット持ち帰り学習に向けた体制づくりの推進
- ◎ 特別支援教育体制を充実するなど、児童生徒に対するきめ細かな教育・指導体制の整備

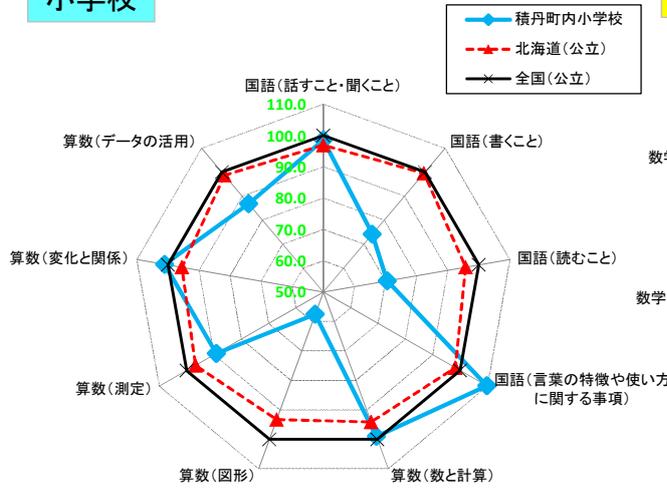
■積丹町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:15人）

【教科全体の状況】

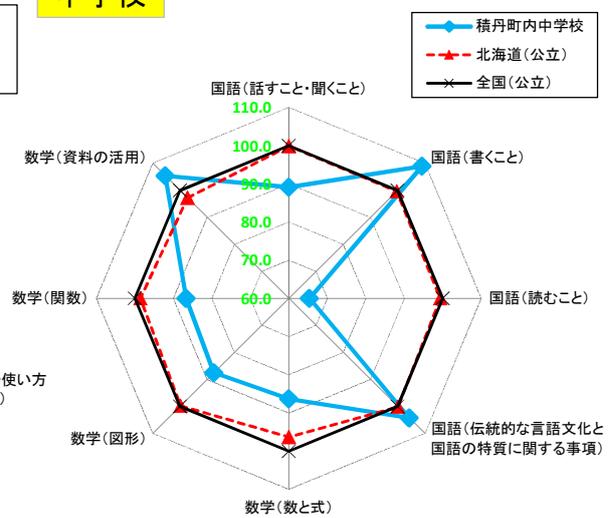
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	60
算数・数学	63	52

小学校

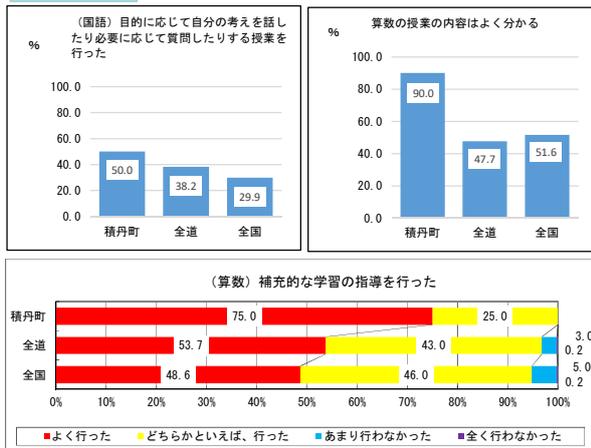


中学校

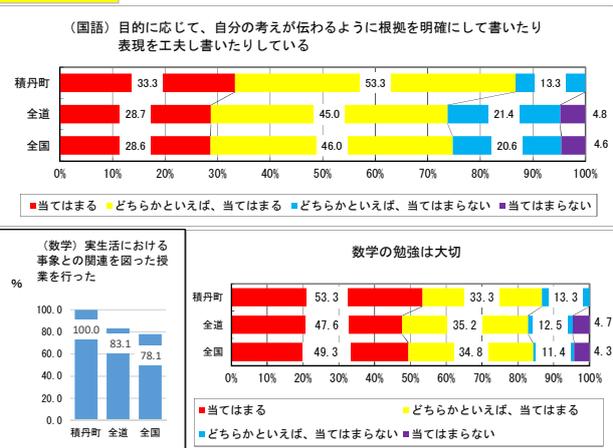


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の指導において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、話すこと・聞くことの領域において全道を上回ったと考えられる。
算数の指導において、補充的な指導を丁寧に行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の指導において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、書くことの領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の指導において、実生活との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は大切と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【積丹町の学力向上策】

- ◎ 学習習慣の定着と学力向上を図ることを目的に、学習塾講師によるB&Gサポートゼミナールを実施(中学生対象)
- ◎ 教育支援を必要とする児童生徒の指導の充実を図るため教育支援員を配置し、きめ細かな指導を継続
- ◎ 学習指導員による放課後を活用した補習授業のサポート(オンライン学習サポート)を実施(小学生対象)

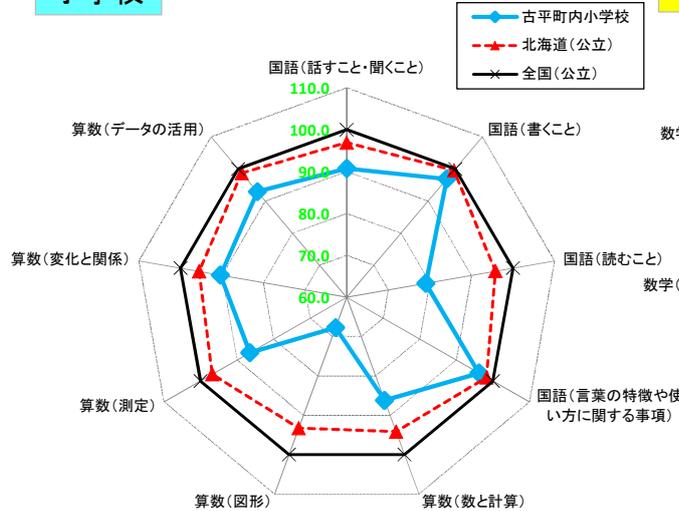
■古平町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:11人）

【教科全体の状況】

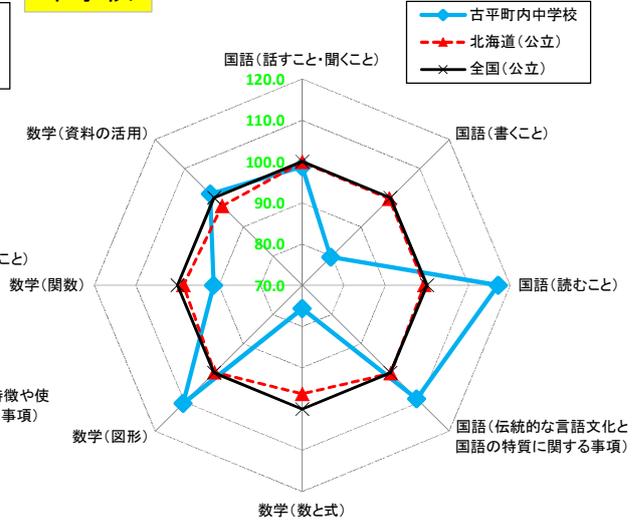
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	66
算数・数学	61	53

小学校

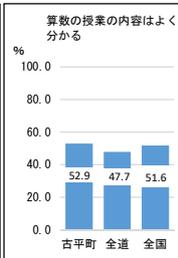
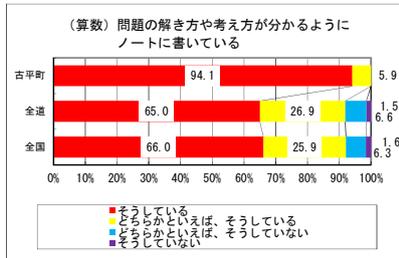
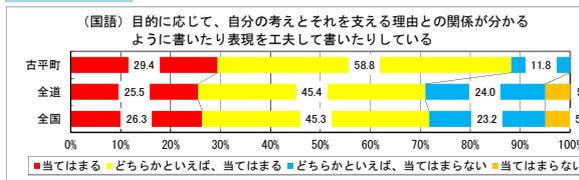


中学校

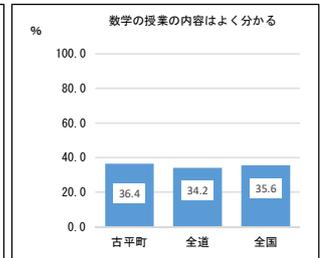
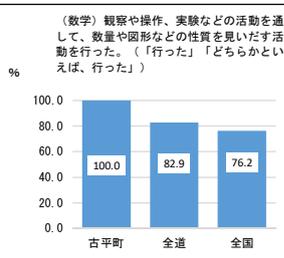
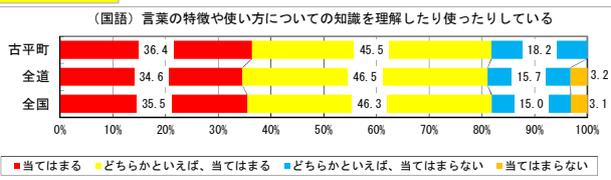


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の指導において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、書くこと領域において全国に最も近くなったと考えられる。
算数の指導において、問題の解き方や考え方が分かるようなノート指導を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かるかと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の1領域1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の指導において、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かるかと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、図形の領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

【古平町の学力向上策】

- ◎ 個別指導やチーム・ティーチングなど、児童生徒の実態や学習内容に応じた指導の実施
- ◎ 小中9年間を見通した教育課程編成と授業交流を通じた協働的な実践の推進
- ◎ ICT機器を活用しながら対話的な学びを行い、問題の発見や解決に挑む資質・能力を高める取組の実施

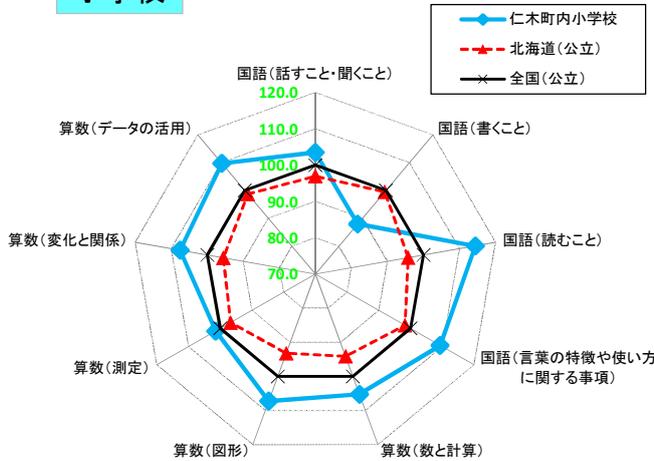
■仁木町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:29人）（中学校数:2校、生徒数:22人）

【教科全体の状況】

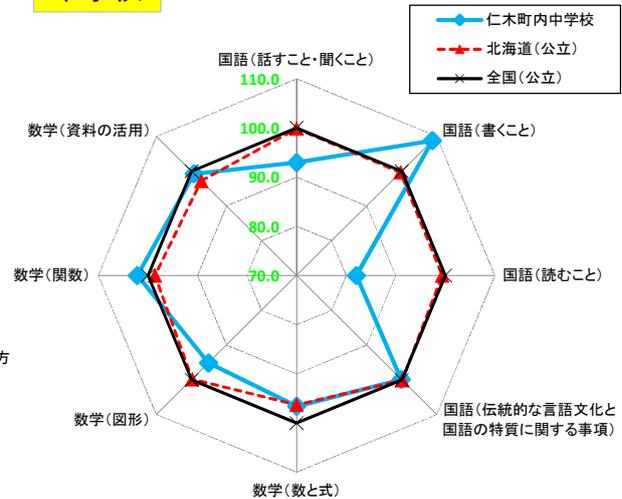
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	62
算数・数学	75	56

小学校

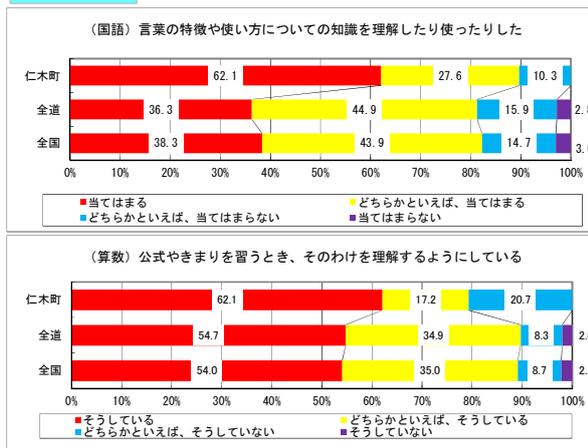


中学校

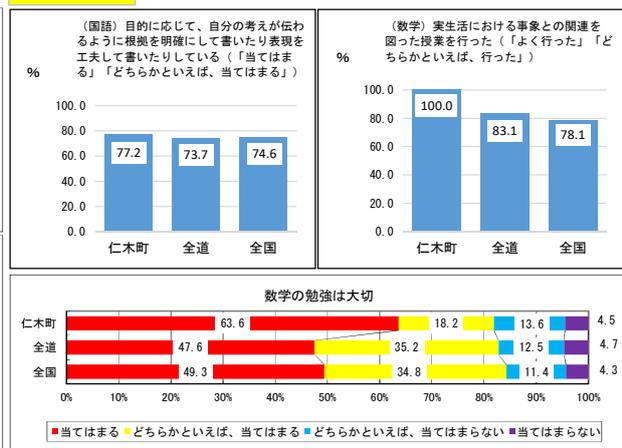


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の2領域1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の指導において、公式やきまりを教えるとき、そのわけを理解するように指導したことにより、算数の全ての領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の指導において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、書くことの領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の指導において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は大切と回答した生徒が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【仁木町の学力向上策】

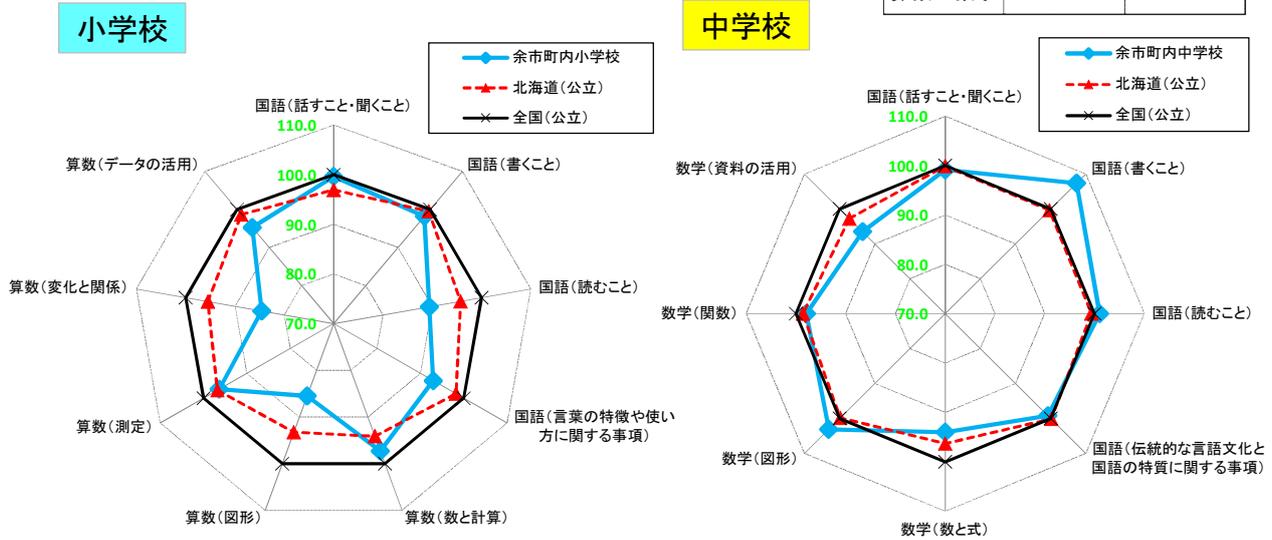
- ◎ 児童生徒の学力向上や適応指導の充実のため学力向上支援員の配置
- ◎ 外国語指導助手(ALT)の活用
- ◎ 教育的配慮が必要な児童生徒に対し、個々に応じたきめ細かな教育を進めるため特別支援教育支援員の配置

■余市町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:68人）（中学校数:3校、生徒数:99人）

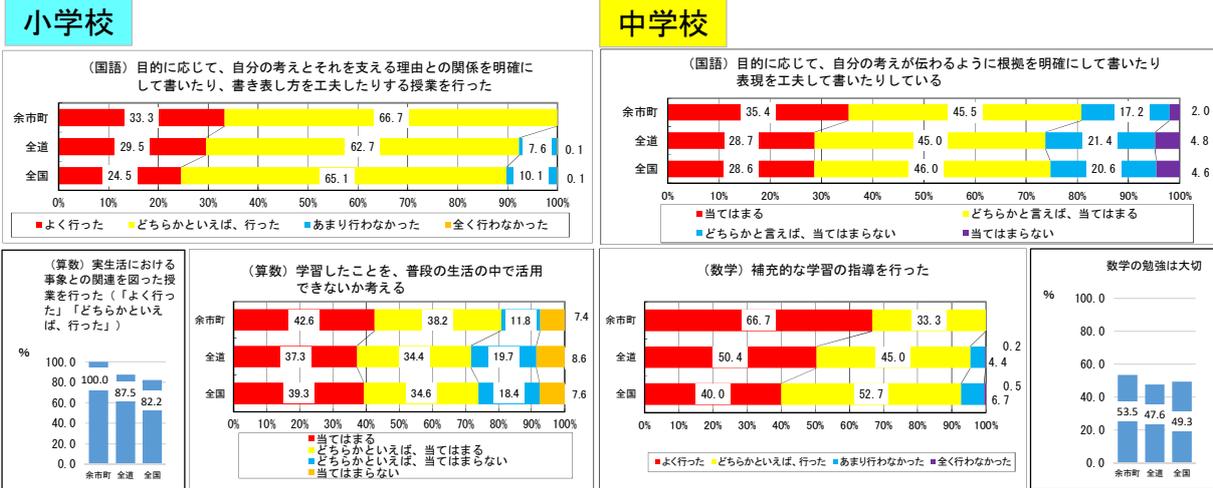
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	65
算数・数学	65	55



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
<p>国語の指導において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりするなどの授業改善を行ったことにより、国語では書くことの領域において全国に近くなったと考えられる。</p>	<p>国語の指導において、目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、書くことの領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。</p>
<p>算数の指導において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。</p>	<p>数学の指導において、補充的な学習の指導を丁寧に行ったことにより、数学の勉強は大切と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。</p>

【余市町の学力向上策】

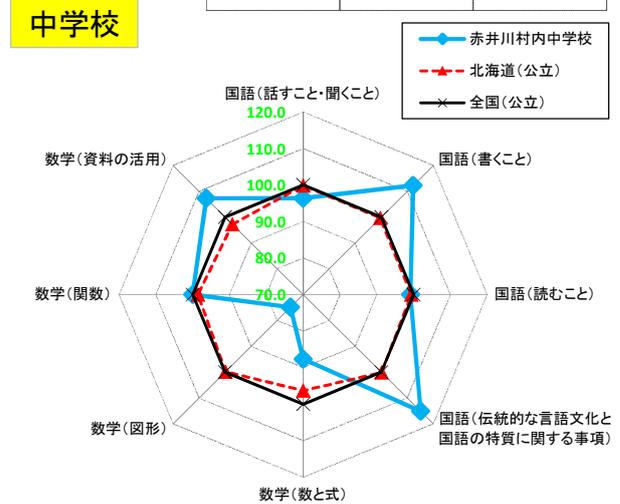
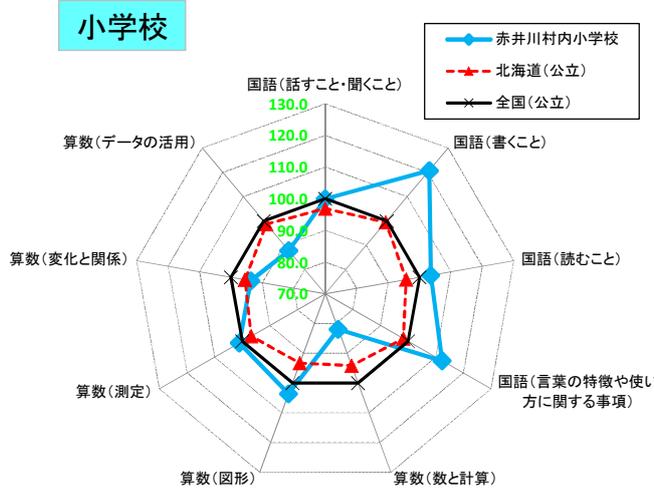
- ◎ 地域全体の学力向上に向けた町内全小・中学校の参加による授業改善推進チーム活用事業定例報告会の実施
- ◎ ICT機器を活用した児童生徒の主体的な学習活動や、学習意欲、思考力、判断力、課題解決力を育成する教育の展開
- ◎ 外国人指導助手を活用した生きた英語による児童生徒のコミュニケーション能力と国際感覚の養成

■赤井川村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

【教科全体の状況】

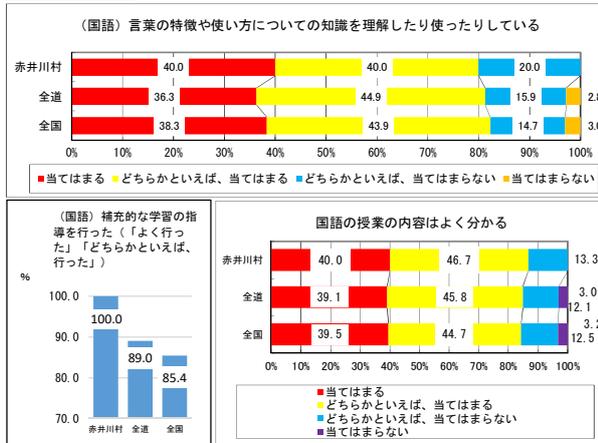
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	69
算数・数学	64	52

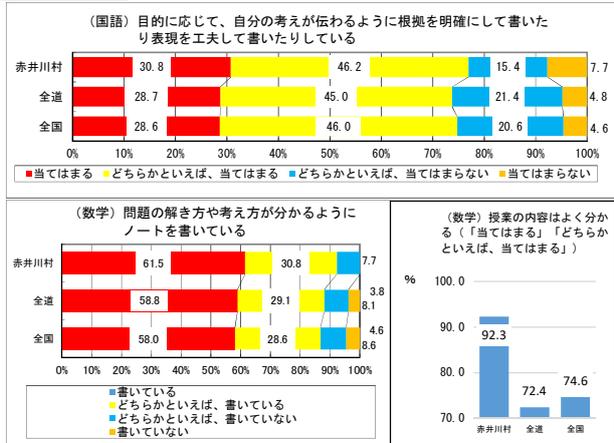


【質問紙の状況】

**小学校**



**中学校**



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

国語の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりした授業を行ったことにより、国語の2領域1事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の指導において、補足的な指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

**中学校**

国語の指導において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、書くことの領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の指導において、問題の解き方や考え方が分かるようなノート指導を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かるかと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【赤井川村の学力向上策】

- ◎ 学校運営協議会を通じた学習の目的と方法を地域・保護者と共有することによる開かれた教育課程の推進
- ◎ 小中連携推進委員会を通じた村内小・中学校の学習規律や学習過程の統一
- ◎ 1人1台タブレット端末を活用した分かる授業づくりの推進